

【パートナーシップ】
 子どもを中心に据え、子どもをどう育むかをテーマに、共に主体的に取り組んでいきましょう。
 「学校が地域へ、地域が学校へ」と協働する場を増やしていきましょう。

【参画】
 参画とは、計画段階から、子どもをどう育むかについて、当事者が話し合うことです。
 子どもたちを育てるのは、学校だけではありません。地域のいろいろな世代の方とのふれあいにより、子どもたちは成長していきます。

【協働】
 協働とは、子どもたちの育ちのために、学校と地域と地域が、協力して活動することです。
 そのためには、共に「学び」「考え」「汗をかき」「振り返る」が必要です。そのサイクルを学校・地域の中に根づかせることが大切です。

【熟議】
 熟議とは、学校・家庭・地域の三者が、まず、子どもの教育課題を共有し、次にお互いの立場を尊重しながら、その解決に向けた三者が協働する具体的な取組を考え、見いだすための話し合いです。
 「熟議」というと、難しいものと考えがちですが、子どもに関わるそれぞれが当事者意識をもって、子どもが抱えている課題をみつめ、その解決方法を話し合い、具体的な取組へとつないでいくことが大切です。



【熟議のワークショップ (例)】
 (めあて)
 「学校コミュニティ協議会 (仮称)」等の地域の方々、保護者、教職員等子どもに関わる者が一堂に会する場で、自校の子どもたちの課題を見出し、その解決方法を考える。

- (留意点)
- ☆ 各学校において、子どもたちの課題はすでに教職員全員で共通理解が図られているとは思いますが、子どもに関わるすべての方が同じ立場で、目の前の子どもたちの姿について「共に学び」、その解決策を「共に考える」ことが大切です。
 - ☆ 教頭先生、地域コーディネーター等がファシリテーターとして進行役となり、ワークショップを進めてください。

- 【準備物】
- ・色マジック
 - ・模造紙
 - ・A4色上質紙
 - ・付箋
 - 等

「学校が取り組んだこと」と「地域コーディネーターが感じている効果」の相関について

<p>学校が取り組んだこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ コーディネーターやボランティアの活動スペースを校内に確保した。 ○ コーディネーターやボランティアに対して、学校の紹介や案内を実施した。 ● 「コーディネーターやボランティアの活動スペースを校内に確保する」など、学校と地域が顔見知りの関係になり、コミュニケーションが図られることで、様々な効果が表れていると考えられます。 	<p>地域コーディネーターが感じている効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 保護者の子育てに関する見方や考え方が変化した。 ○ ボランティアへの保護者の参加数が増えた。 ○ 教職員の意識改革により、子どもへの好影響が見られた。 ○ 教職員が子どもと向き合う時間が増えた。 ○ ボランティアへの保護者の参加数が増えた。
<p>学校が取り組んだこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童生徒の集会等でコーディネーターやボランティアの紹介をした。 ● 児童生徒とコーディネーターやボランティアとの距離が近くなることによって、事業効果が高まっていると考えられます。 	<p>地域コーディネーターが感じている効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもたちの問題行動や不登校が減少した。

(平成26年度「奈良県学校・地域パートナーシップ事業」に関する調査より)

1 「学校の子どもの課題を探ろう」(45分)

活動	留意点
1 グループ分け、役割分担する。(5分)	※ 4人程度の異年齢で構成されたグループ。役割は、記録者、発表者等を決める。司会者は必要ない。
2 子どもたちの気になる点(課題)についてブレインストーミングを行う。(5分)	※ 気になる点を付箋に書きためる。1つの付箋に1つの課題を単語で記載する。 ※ 制限時間は3分程度、時間内にできるだけたくさん課題を挙げる。
3 熟議を行い、課題を1つに絞る。(20分)	※ 1人1分は時間を確保して、自分が記入した課題について話をする。 ※ 付箋の課題を、模造紙等に分類・追加・集約することを通して、最重要課題を抽出する。 ※ 全体交流用に、グループ内の最重要課題1つをカード(A4用紙)に記入する。
4 全体交流を行い、最重要課題を抽出し、その解決法を考える。(15分)	※ 各グループの発表者が、順次カードを掲示し、説明を加えながら発表する。 ※ ファシリテーター(進行役)は、各グループから出た課題を集約・分類し、全員合意の上で最重要課題を導き出す。 ※ 全員で、最重要課題を解決するための方法を考える。

2 「子どもたちの教育課題の解決方法を考えよう」
 ※ 上記ワークショップと同様の流れで「地域の方・保護者と共に、子どもたちの教育課題を解決する方法」を導き出す。